

生活体験発表

七校は定時制の高校です。定時制・通信制高校の生徒達が、自分達の生活について発表する場があります。『生活体験発表会』と言います。10月に県大会、11月に全国大会が行われます。昔は、定時制高校に通う生徒の多くは、働きながら通学し勉強していました。様々な苦労があったことは容易に想像できます。そのような苦労や思いを発表し合う場が、生活体験発表会です。現在では、勤労青年は少なくなりましたが、それでも生徒達には、それぞれの悩みや、伝えたい思いがあります。生活体験発表会は、私たち大人にとっても、生徒達の声に耳を傾け、世の中の有り様や自分の生き方を考える良い機会になります。

9月10日(火)、活性化センターで、校内予選が行われました。15名が発表し、最優秀賞(県大会代表)には、3年の後藤 愛美さんが選ばれ、3名が優秀賞に選ばれました。後藤さんの作文は、県大会終了後に、その全文を掲載する予定です。今回は、優秀賞の三つの作文を、紙面の都合上、全文ではなく抜粋で掲載します。



学校長から最優秀賞の表彰を受ける、
3年 後藤 愛美さん

優秀賞『今の自分』

3年 山家 直人

自分は中学1年の後半あたりから不登校になりました。周りのみんなが普通に話しているだけなのに、全部自分の悪口や陰口を言っているように聞こえてしまい、どんどん自分で自分を追い込んでしまい、ついには学校を休むようになっていきました。今考えると自意識過剰だったと思うし、弱かったと思います。でも当時は本当に辛かったし、相談できる相手もいないし、ずっと悩んでいました。

中三のある日、学校に行かなければという気持ちに駆られて、誰かに押されるように家を出ました。ようやく学校に着くと、知っている顔が見えて、こっちを見て何か話していました。何も聞こえる筈はないのに、自分には悪口に聞こえてしまい、折角ここまで来たのに帰ろうという気持ちになりました。その時後ろから声を掛けられ、振り返ると、何度も家に来てくれた友達がいました。「やっと来たのかよ。教室行くぞ」と背中を押してくれ、私はやっと動くことができました。帰りは仲が良かった友達と学校の話をしながら帰り、家の前で「また明日な」と言って別れました。

次の日になり、また行こうかどうかと迷ってしまいました。すると友達が迎えに来てくれて、一緒に学校に行きました。それからは徐々に欠席も少なくなっていました。

高校に入ってからはいろいろなことに挑戦しました。辛いこともあったけど、途中で負けないで最後までやる力がつきました。その中で最も大きく変わったことがあります。それは人を頼るようになったことです。これからは進路のことで忙しくなりますが、分からないことがあれば先生や友達、家族を頼って自分の将来を決めていきたいと思っています。

優秀賞『自分』

2年 小野 知美

私には大切な人が居ます。大事な人が居ます。傷付けたくない人が居ます。大好きな人が居ます。私はその人達のおかげで、色々考え、悩み、学びました。

七ヶ宿校。この学校は、良くも悪くも色々と考えさせられる学校です。私はこの学校で、『自分』を見るのが少しできたと思います。

私には大好きな友達が居ます。ちゃんと注意してくれる大切な友達。何回か喧嘩もしました。その人は私に色々な事を教えてくれます。私の憧れの人です。

私には唯一ちゃんと話せる先生が居ます。初めて、先生を頼りました。その先生は、どんな話でも聞いてくれます。多分、めちゃくちゃ迷惑を掛けています。なのに、ちゃんと話を聞いてくれます。

私には仲間が居ます。勝手ながら仲間だと思っている、クラスの皆です。

私には、憧れている人達が居ます。その人達は、私が持っていないものを持っています。

私には神様が居ます。笑顔にしてくれて、私の道を照らしてくれる、光みたいな人。

こんな人達と出会い、知り合い、今まで毎日楽しく過ごして来た気がします。

そんな時、私は喧嘩をしてしまいました。相手が正しくて、同じ事を注意されて、でも直せなくて、直せない自分に腹が立ちました。その人のおかげで、相手の考えを認めること、相手も気持ちを考えることを学びました。

私は自分が嫌いです。何の為に生きているのか、存在理由が分かりません。死にたいと思う時もあります。でも、自分が嫌いなら好きになれるところを見付けばいい。生きる意味なんかその内きっと見付かる。そう思っています。

優秀賞『私に必要なもの』

1年 河村 瑞穂

私は、この春七校に入学して、生活のリズムが変わった。中学の頃は遅刻ギリギリに登校し、放課後は夏も冬もずっと部活だった。今は、バスに遅れないように早起きになった。帰りは家に帰らずバイトに直行する。

中学の時の自分はガキだったと思う。先生や親に迷惑を掛けて、怒られて、怒られたことに逆ギレして。あの時素直になれていたら、失わずに済んだものもあったのにと、後悔してしまう。昔と比べると、ほんの少し、本当に少しだけ、大人になっていると感じる。

その一方で不安がある。中学の時には、嬉しかったら素直に喜べた。今は違う。嬉しいことがあっても、これは本当だろうか？と疑ってしまう。『人間不信』という言葉が、今の自分に合っている。人と話をしても、この人は本当にそう思っているのだろうか？それとも、表面上だけ？そう思うと人間って怖い。でも、もしかしたら自分自身も表面上だけなのかも知れない。何をしたいのか、何を考えているのか、自分の事なのに分からない。笑うことも少なくなった気がする。

今の自分は他人に流されている気がする。それは『自己主張』がないから。でも、その方が楽かも知れない。人と関わることが減ったので楽。面倒くさい人、嫌いな人とも関わらなくて済むから。でも、今の自分は楽だけど、中学の時より楽しくない。学校に行く意味が分からない。面倒くさい。居心地が悪い。今すぐにでも学校を辞めたい。

色々な気持ちがあって、それらが矛盾している。今やりたいこと、思っていること、それすら分からない。今の自分に必要なものがこの七校で見つかるか分からない。でも、毎日学校に行くことで何か見付かるなら見付けたい。今の私に欠けているものはたくさんある。だからこそ、今の自分には学校が必要なのかも知れない。